

東京国際大学



のために貢献する心である。

英語教育では、独自の英語教育組織をネイティブ教員で構成し、少人数の双方向授業を実施。米名門大学と提携した留学など多様な留学制度が設けられ、英語のみで学位を取得するプログラムでは、在籍する多くの留学生が学んでいる。

東京国際大学は、6学部10学科、4研究科を擁する文科系総合大学である。1965年、商学部のみ単科大学の国際商科大学として創学、1986年に東京国際大学と名称を変更した。

「公德心を体した真の国際人の養成」を建学の理念とする。「公德心」とは、グローバル社会における多様性や異文化の理解、他者への配慮といった人類共通の普遍的な価値観のもとで「公」おおよけ

また、人間力の形成につながるスポーツ教育を実践しており、世界を知る指導者と大学屈指の施設・設備を誇り、強い志を持って行動できる人材を養成している。2021年4月、医療健康学部理学療法学科を開設。

2023年秋には、新たに東京・池袋のサンシャインシティ隣接地に池袋キャンパスを開設する。

東京国際大学

倉田 信靖

学校法人東京国際大学
理事長・総長



日本私立大学連盟に加入するにあたり、理事長・総長の

戦』、「公德の国 JAPAN」がある。

倉田信靖が会員代表に就任した。同理事長・総長は1960年大東文化大学文政学部中国文学科卒業。1988年同大学文学部教授。1989年大東文化学園理事。

学校法人東京国際大学副理事長を経て、2009年理事長・総長に就任。また同年学校法人敬心学園理事、会長に就任。

この間、全国漢文教育学会理事、日本中国学会評議員を歴任。2000年日本學術振興会科学研究費委員会専門委員。2002年大東文化大学名誉教授。

その他、筑波大学国際化拠点整備事業評価委員会委員に2010年就任。同年、米国ウィラメット大学より名誉人文学博士号を授与。公益財団法人日韓文化協会の代表理事会長を1988

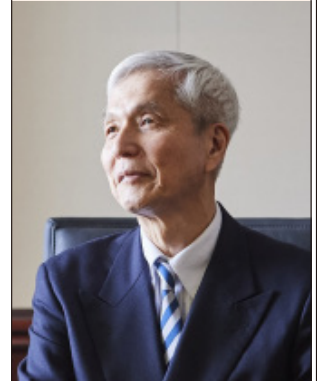
専門分野は中国哲学、日本儒学。主な著書に『王陽明全集』（共著）、『李綱文集』、『三事忠告』、『吉田松陰』、『連

年より務め、韓国人留学生向けの奨学金支援事業を推進。一般財団法人昭和経済研究社代表に2010年就任。

白鷗大学

北山修
きたやま おさむ

白鷗大学 学長



4期8年にわたる奥島孝康前学長のあとを受けて、2021年4月1日付で北山修氏が第6代学長に就任した。任期は2年。

北山新学長は1946年兵庫県生まれ。京都府立医科大学医学部卒業後、ロンドン大学精神医学研究所およびモーズレイ病院にて研修。九州大学大学院教授などを経て、2010年白鷗大学教育学部教授に就任。2011年学校法人白鷗大学の理事となり、学校経営にも携わる。2013年から4年、副学長を務めた。

専門は精神分析学、精神医

学。著書は『見るなの禁止』『劇的な精神分析入門』、『フロイトと日本人 往復書簡と精神分析への抵抗』（編著）など多数。精神分析家ウイニコットに関する研究では日本の第一人者。日本精神分析学会会長も歴任。作詞家としても『戦争を知らない子供たち』、『あの素晴らしい愛をもう一度』などを手掛けた。

学生一人ひとりが青年期の葛藤を未来への成長に繋げ、建学の精神を具現化した言葉「PLUS ULTRA（さらに向こうへ）」のように、自らの限界を越える4年間にしてほしいと願っている。

広島女学院大学

三谷高康
みたに たかやす

学校法人広島女学院 院長
広島女学院大学 学長



湊晶子前学長の任期満了に伴う後任として、4月1日付で三谷高康氏が学校法人広島女学院院長・広島女学院大学学長に就任した。任期は4年。三谷新院長・学長は大阪府生まれ。同志社大学を卒業後渡米。南メソジスト大学（パーキンス神学院）、イエール大学神学大学院、アンドーヴァー・ニュートン神学校等で学び、修士号、博士号を取得。81年に帰国後は大阪、小樽で日本基督教団の牧師として牧会に従事しつつ、同志社女子大学、松山東雲学園、神戸女学院大学等で教鞭をとる。2006年に桜美林大学

に教授として迎えられた。その後、2012年、学長に就任し、2期6年間勤め、その間、新学群を立ち上げ、学内のガバナンス強化に尽力、さらに新宿キャンパス創設の事業に関わった。専門分野は「実践神学」。新院長・学長として135年の歴史を誇る広島女学院の伝統に新風を吹き入れ、創立者のパイオニア精神に後れを取ることなく、時代を先取りした斬新な改革を實行したい。また、自分の考えにしっかり立った「ぶれない個」を持つ学生を社会に送り出したいと抱負を語っている。

神戸女学院大学

なかの けいいち
中野 敬一

神戸女学院大学 学長



齊藤言子前学長の任期満了に伴い、2021年4月1日付で中野敬一文学部教授が新学長に就任した。

中野新学長は1964年岡山県生まれ。同志社大学大学院神学研究科博士課程前期修了後、米国・太平洋神学校(博士課程)修了。日米のキリスト教会の牧師職等を経て、2010年から神戸女学院大学文学部准教授、2015年に教授となり現在に至っている。神戸女学院のチャプレン職も担い、専門分野はキリスト教実践神学。死生観や葬送儀礼に関する研究を行い、著書には

『現代の死と葬りを考える―学際的アプローチ』(共著)等がある。

神戸女学院は2025年に創立150周年を迎える。中野新学長は、学院の永久標語『愛神愛隣』に基づき、利害を超えて隣人のために自分を用いる卒業生を世に送り出す使命をあらためて覚え、AI社会において「人にとって真に大切なもの」を学生と共に考え続けていきたいと抱負を語る。日本社会における女性教育の今日的意義を訴え、さらに新たな時代に相応しい学修環境の充実も目指す。

神戸海星女子学院大学

いしはら けいこ
石原 敬子

神戸海星女子学院大学 学長



小野礼子前学長の任期満了に伴い、2021年4月1日付で石原敬子教授が学長に就任した。

石原新学長は1968年兵庫県西宮市生まれ。1991年神戸海星女子学院大学文学部英文学科卒業、1996年ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン大学院音声学・言語学研究科修士課程修了。本学文学部英文学科助手を務めた後、1997年同専任講師に就任、准教授を経て、2011年教授となり現在に至る。現代人間学部英語キャリア学科主任、英語観光学科主任、入試・広報

部長、教務部長を務めた。専門は音声学。主な論文は「英語学習における音読の有用性」音読と脳のはたらき」(『神戸海星女子学院大学 言語文化研究』創刊号)など。

神戸海星女子学院大学は、マリアの宣教者フランシスコ修道会を設立母体とし、真理と愛に生きるというキリスト教的価値観に基づき、人を支え、社会に奉仕する女性の育成を目指している。教員が学生一人ひとりと真摯に向き合い、時に厳しく、常に愛をもって、きめ細かな教育を行っている。

九州産業大学

きたじま み さ よし
北島 己佐吉

九州産業大学 学長



榊泰輔前学長の任期満了に伴い、2021年4月1日付で北島己佐吉教授が学長に就任した。任期は3年。

北島新学長は福岡県出身。九州芸術工科大学（現・九州大学）を卒業後、日産自動車株式会社入社。2003年4月、九州産業大学芸術学部教授に就任し、キャリア支援センター所長、芸術学部長、美術館長を歴任。

専門は、デザインビジネス。研究は、「グローバルデザイン戦略の研究」、「ブランド構築におけるデザイン要素の研究」、「超小型モビリティのデザイン開発」等。

九州産業大学は2020

年に創立60周年を迎え、今年度からは8分野（教育、研究、国際化、産学連携、社会・地域貢献、ダイバーシティ、ブランディング、経営基盤）のアクションプランからなる中期計画（2021-2030）「文理芸融合のグローバル総合大学へ」がスタート。

大学の競争力の源泉である学修成果を高めるとともに、プロアクティブな発想のもとに「地域」と「学際」をキーワードとする「地域創造ブランドの構築」を目指して、総合的な教育改革に挑戦していく。

ノートルダム清心女子大学

つだ あおい
津田 葵

学校法人ノートルダム清心学園 理事長
ノートルダム清心女子大学 学長



原田豊己前学長の任期満了に伴い、学校法人ノートルダム清心学園理事長津田葵が4月1日付でノートルダム清心女子大学学長に就任した。

津田新学長は1944年中国東北部生まれ。1966年ノートルダム清心女子大学文学部英文学科卒業後、上智大学大学院外国語学研究所言語学専攻修士課程修了。

1976年、フルブライト奨学生として渡米。ワシントンDCトリニティ大学言語学日本語学講師。1980年、ジョージタウン大学大学院言語学研究科博士後期課程

修了。Ph.D.（言語学）。

1981年ノートルダム清心女子大学文学部英語英文学科を経て1991年から大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科教授、コミュニケーション論講座主任。2007年定年退職。大阪大学名誉教授。

2002年～2007年大阪大学21世紀COEプログラム「インターフェイスの人文学」事業推進者。現在、津田ゼミ出身者が国内外で、大学・教育機関において活躍中。著書に『コミュニケーションの日米比較』（大阪大学出版会）他。

拓殖大学

鈴木 昭一
すずき しょういち

拓殖大学 学長



川名明夫前学長の任期満了に伴い、4月1日付で拓殖大学学長・大学院長に就任した。

鈴木新学長は1964年茨

城県生まれ。明治大学経営学部経営学科を卒業。1989年3月同大学大学院経営学研究科博士前期課程修了(経営学修士)、1992年同博士後期課程を満期退学。同年4月より拓殖大学商学部助手として着任。以後、専任講師、

助教を経て、2005年より教授、現在に至る。2011年商学部長、2015年大学院商学研究科委員長、2017年副学長を歴任した。専門は国際会計、財務会計。主な著

書に、『プレステップ会計学』

(2009年、弘文堂、共著)、『基本から学ぶ会計学』(2019年、中央経済社、共著)。

座右の銘は「果報は寝て待て」。人事を尽くした後は気長に良い知らせを待つしかない。人は誰しも急いで結果を求めがちであるが、目の前の為すべき事に最善を尽くすべきと言いつつも聞かせる。学問も仕事も人生も同じ。

拓殖大学は2021年度より中長期計画「教育ルネサンス2030」をスタートさせて、人事を尽くしたいと意欲を見せる。

四日市大学
四日市看護医療大学

喜岡 渉
きおか わたる

学校法人暁学園 理事長



丸山康人前理事長の任期満了に伴い、喜岡渉氏が3月30日付で理事長に就任した。

喜岡新理事長は香川県高松市出身。1974年京都大

学工学部を卒業後、カリフォルニア大学バークレー校大学院工学研究科で学び、1980年Ph.D.を取得。同年名古屋工業大学助手、1993年同大学教授となり、2003年からは副学長(教育担当)、夜間学部主事、附属図書館長などの学内要職を歴任。2017年同大学定年退職。名古屋工業大学名誉教授。

専門分野は海岸・海洋工学。著書に『海岸波動』(分担

執筆)、『波・潮汐の観測とモデリング(英文)』(共著)ほか、海岸波浪、沿岸災害、海洋開発に関する多くの学術論文がある。

暁学園は、四日市大学、四日市看護医療大学のほか、暁高等学校、暁中学校・高等学校(中高一貫校)、暁小学校、暁幼稚園を擁する総合学園で、今年6月に創立75周年を迎えた。両大学においても引き続き、私立学園のダイナミズムを遺憾なく発揮し、学園綱領「人間たれ」の精神を堅持し、豊かな人間性と高度な専門性を兼ね備えた人材の育成に集中する決意である。

福岡女学院大学

伊藤 文一
いとう ふみかず

福岡女学院大学 学長



阿久戸光晴学長の任期満了に伴い、伊藤文一副学長が2021年4月1日付で学長に就任した。

伊藤文一新学長は、長崎大学教育学部工業技術科、東京学芸大学大学院教育学研究科、九州大学大学院人間環境学研究所を修了。公立中学校の教師、教頭、校長などを経て、2007年より福岡女学院大学人文学部教授、2018年より同大学副学長等を歴任した。専門分野は、学校臨床教育学である。

創立から136年の歴史を持つ福岡女学院大学のビ

ジョンは「つながり」である。「信仰によって、イエス・キリストとつながり、愛によって、ともにつながり、希望をもって、社会へ、未来へ、とつながっていく」。この理念を踏まえ、地域貢献を軸にしながら、自已有用感を育成し、学生が誇りに思い、地域に愛される大学を目指している。

聖書に「もし、からし種一粒ほどの信仰があれば…あなたがたにできないことは何もない」とある。宗教的教育が目指すもの、それは、多くの人たちを救う力になるものでなければならぬ。それを強く信じている。

芝浦工業大学

山田 純
やまだ じゅん

芝浦工業大学 学長



村上雅人前学長の後任として、2021年4月1日付で工学部機械工学科山田純教授が学長に就任した。

山田新学長は1959年奈良県生まれ。1978年大阪星光学院高等学校を卒業後、東京工業大学生産機械工学科、ヤマハ発動機株式会社、東京工業大学院を経て、1988年同大学助手に着任。1994年3月に博士(工学)の学位を取得し、1995年山梨大学助教授、2005年芝浦工業大学教授。2015年から工学部長。2018年以降は理事を兼任。専門は、熱工学、光応用工

学。2000年頃から10年余り化粧品開発に係る産学共同研究に携わる。現在の研究テーマは、皮膚の光物性計測、レーザー治療、視覚的質感の学理など。2004年度日本伝熱学会学術賞、2005年日本熱物性学会論文賞。2009年度日本機械学会賞(論文)を受賞。

趣味はモーターサイクル。「もの」、「こと」を創造することを楽しむ人材を輩出したことを考えている。2027年の大学創立100周年に向けて、研究力の強化を通じて、国際的に通用するブランド力の獲得を目指す。

山田 耕太(やまだ こうた)

敬和学園大学長、新潟居留地研究会会長。国際基督教大学大学院博士前期課程、英国ダラム大学大学院博士課程修了(Ph.D.)。'15より現職。専門は新約聖書学。主著に『Q文書』ほか。

尾池 守(おいけ まもる)

石巻専修大学学長。東京工業大学大学院理工学研究科生産機械工学専攻博士課程修了。工学博士(東京工業大学)。「02より石巻専修大学理工学部教授、「16より現職。

北條 英勝(ほうじょう ひでかつ)

武蔵野大学副学長・人間科学部教授。東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学。「14より私立学生生活実態調査分科会長。

加藤 恵津子(かとう えつこ)

国際基督教大学教養学部教授(人類学、ジェンダー研究)。「01トロント大学人類学部博士課程修了。「18より学生部長。主著『グローバル人材とは誰か』など。

松下 琢(まつした たく)

崇城大学副学長(教育担当)、生物生命学部教授。「88東京大学大学院農学系研究

科農芸化学専攻博士課程修了。農学博士。九州大学を経て「00より崇城大学。

宮間 純一(みやまじゅんいち)

中央大学文学部准教授。「12中央大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(史学)。国文学研究資料館研究部准教授を経て「18より現職。主著『戊辰内乱期の社会』など。

山田 健太(やまだ けんた)

専修大学文学部(ジャーナリズム学科)教授。「84青山学院大学卒。専門は言論法、ジャーナリズム研究。近著『沖繩報道』『法とジャーナリズム 第四版』。

古久保 潤一(ふるくぼ じゅんいち)

近畿大学大学運営本部入学センター次長。

金子 大輔(かねこ だいすけ)

法政大学入学センター入試課長。「17総務部庶務課長。「20より現職。

森脇 裕美子(もりわき ゆみこ)

松山大学入学広報部次長。「90松山大学経営学部経営学科卒業。

飯山 晴信(いひやま はるのぶ)

学校法人武蔵野大学経営企画部長。東洋

大学社会学部卒業。武蔵野学務室長、大学入試センター事務課長を経て、「21より現職。

井上 隆信(いのうえ たかのぶ)

大正大学入試部部长。「91大正大学仏教学部卒業後、同大学事務局入職。就職部長、学生支援部長、学術推進部長を経て「209月より現職。国家資格キャリアコンサルタント。

七海 雅人(ななみ まさと)

東北学院大学入試部大学アドミッシヨンオフィサー。東北大学大学院文学研究科修了。日本中世史専攻。共著『大学で学ぶ東北の歴史』(吉川弘文館)。

小串 和夫(おぐし かずお)

学校法人皇學館理事長。熱田神宮名誉宮司。「63月皇学館大学文学部国史学科卒業。乃木神社、多度神社(現多度大社)、熱田神宮の宮司を歴任。「204月より現職。

柿内 利宏(かきうち としひろ)

亜細亜大学国際連携部インターナショナルセンター課長。

菊地 端夫(きくち ますお)

明治大学国際教育センター長。経営学部

公共経営学科教授。カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、明治大学国際教育副センター長等を経て、'20より現職。

熊谷 嘉隆（くまがいよしとか）

公立大学法人国際教養大学理事、同大学副学長。'01オレゴン州立大学大学院森林学部博士課程修了（Ph.D.）。ワシントン州立大学研究員を経て、'04より国際教養大学、'19より現職。

池田 佳子（いけだけいこ）

関西大学国際部教授。ハワイ州立大学博士課程修了（Ph.D.）。トロント大学、名古屋大学を経て、'09より関西大学、'15より現職。主著『コミュニケーション能力の諸相』（共著）など。

戸次 顕彰（とつぐけんしょう）

大谷大学文学部講師。大谷大学大学院博士後期課程満期退学。博士（文学）。大谷大学助教、親鸞仏教センター研究員などを経て、'20より現職。専門は仏教学・中国仏教史。

吉川 昌孝（よしかわまさたか）

京都精華大学メディア表現学部長。'89博報堂入社。マーケティングプランナー、未来洞察コンサル、メディア環境研究所所長等を経て、'21から現職。

奥田 隆明（おくだたかあき）

南山大学副学長（研究推進・教育支援担当）、同経営学部教授。'89名古屋大学大学院工学研究科博士前期課程修了、博士（工学）。名古屋大学を経て、'13より南山大学。

山下 修（やましたおさむ）

芝浦工業大学地域連携・生涯学習企画推進課課長事務取扱。危機管理室長兼務。

秋山 正子（あきやまさこ）

認定NPO法人マギーズ東京 共同代表理事。聖路加看護大学（現聖路加国際大学）卒業。'11「暮らしの保健室」を新宿に開設、'16NPO法人マギーズ東京を設立。

外川 智恵（とがわちえ）

大正大学表現学部准教授。大正大学文学部卒。カリフォルニア臨床心理大学院修士課程修了。'92山梨放送入社。「NTT技術ジャーナル」のトップインタビューなどを務める。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

会長の決定について

長谷山彰前会長（慶應義塾前塾長）の会員代表者の交代に伴い、令和3年6月8日開催の理事会において、新会長を左記の通り決定いたしましたので、お知らせします。

任期は令和3年6月9日から令和4年6月の定時総会終結時までです。

会長 田中愛治 早稲田大学総長

会長の動き

● 5月11日(火)

第2回常務理事会、第2回理事会に長谷山前会長が出席(ハイブリッド開催)

● 6月8日(火)

第3回常務理事会、第3回理事会に長谷山前会長が出席(ハイブリッド開催)

● 6月9日(水)

日本私立大学団体連合会第123回役員会、第88回総会に長谷山前会長が出席

● 6月14日(月)～21日(月)

長谷山前会長・田中会長挨拶回り(文部科学省、財務省、主要国会議員等)

● 6月29日(火)

第1回総会に田中会長が出席(ハイブリッド開催)

採用と大学教育の未来に関する産学協議会報告書「ポスト・コロナを見据えた新たな大学教育と産学連携の推進」のとりまとめについて

国公立大学の代表者と経団連で構成される「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」は、2021年4月19日に、2020年度報告書「ポスト・コロナを見据えた新たな大学教育と産学連携の推進」を公表しました。

「新型コロナウイルスに伴う科学研究費助成事業補助事業期間再延長の要望」

国立・公立・私立大学団体は共同で、科学研究費に関して、令和3年度まで補助事業期間の延長されている研究課題について、令和4年度まで再延長してほしい旨、文部科学省及び日本学術振興会に要望しました。
▼各資料は、下記の私大連Webサイトをご覧ください。

「令和3年度財務・人事担当理事者会議(第一弾)」開催報告

令和3年5月25日(火)、「私立大学の財務状況と学納金のあり方」をテーマに講演およびグループ討議をオンラインにて開催。63法人92名の参加をいただきました。令和3年度は5月と7月に同一テーマによる開催を企画し、今回は第一弾として、コロナ禍の財務状況をふまえた学納金のあり方について、講演およびグループ討議により情報共有・意見交換を行いました。

私大連 TOPICS

令和3年春の叙勲・褒章
(私大連事業関係者)

◆ 瑞宝重光章

河田 悌一

(関西大学名誉教授)

永井 和之

(中央大学名誉教授)

◆ 瑞宝中綬章

衛藤 卓也

(福岡大学名誉学長)

眞田 雅子

(東京女子大学元学長)

向殿 政男

(明治大学名誉教授)

◆ 瑞宝小綬章

山中 祥男

(上智大学名誉教授)

私大連Webサイトにて各種活動に関する情報を公開

<https://www.shidairen.or.jp/>



私大連公式Facebookページでは『大学時報』関連のお知らせや関連情報も投稿中

<https://www.facebook.com/shidairen/>





University Current Review

大学時報

Webサイトにて、
全文無料公開中

※第301号
(2005年3月発行)から

詳細は

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



奇数月 20日(年6回)刊行

第395号

(2020年11月発行)



【特集】

大学ボランティアセンターの 役割とこれから

【座談会・小特集連動企画】コロナ禍における学生
の心のケア

【インタビュー】高倉 麻子氏(プロサッカー指導者)

第396号

(2021年1月発行)



【特集】

学び合うキャンパス 最前線

【座談会】「教養教育」とは何かを考える

【インタビュー】山下 利奈氏(株式会社高橋書店 書籍事業部 編集部)

第397号

(2021年3月発行)



【特集】

「繋がる」を考える 一帰属意識を高める インナーコミュニケーション

【座談会】東日本大震災から10年を振り返る一地域再生と私立大学一

【インタビュー】杉野公彦氏(株式会社ラウンドワン代表)

第398号

(2021年5月発行)



【特集】

変わる大学入試

【座談会】オンライン授業からの気付き 一語学教育一

【インタビュー】倉橋香衣氏(株式会社商船三井 人事部
ダイバーシティ・健康経営推進チーム 車いすラグビー選手)

座談会 「大学の未来へ—継承と発展—」

特集 「大学スポーツ振興の未来展望」

小特集 「私大文系入試における数学の位置づけ」

だいがくのたから

大学点描

クローズアップ・インタビュー

豊田工業大学

大谷大学

赤羽有紀子さん(城西大学女子駅伝部 コーチ)

編集後記

◆コロナ禍で入学試験はどうなってしまうのか—受験生の多くは不安を抱えながら受験に臨んだことだろう。受験生は、例年以上に体調に気を遣い、細心の注意を払って受験期を過ごしたに違いない。一方で試験を実施する側である大学も過去に例を見ないほど大きな不安を抱えていたことは想像に難くない。

今回の特集「コロナ禍における入試実施」は、コロナ禍でどのように入試を実施してきたか、大袈裟な言い方をすれば各大学の戦いの記録でもある。いずれの大学の対応事例でも受験生のために真摯に対策に取り組んでおり、結果として感染拡大につながるような事例もなかったことは、まさに各大学の努力の賜物であったと言えるだろう。この記録が今後も安心で公平な入試実施のための一助となり、受験生の不安解消に少しでもつなげれば幸いである。

最後になったが、関係者の皆様のご苦勞に最大限の敬意を表したいと思う。〈広報・情報委員会 大学時報 分科会委員・法政大学多摩事務部長 多摩事務課課長 須藤智徳〉

◆今回の小特集「オンライン留学の課題と可能性」では、従来の留学の代替にとどまらず、オンラインだからこそこできることに焦点を当てた取り組みも紹介されている。特にコロナ禍以前から関西大学で取り組まれているCOILにおける国際協働学習は、コロナ禍による状況にかかわらず、内なる国際化推進を大きく後押しする国際教育の新たな可能性を秘めていると思われる。日本では、コロナ禍以前にはICTを活用した国際教育の実践の事例は限られており、この1年の間に多種多様なものが一気に出来上がった感がある。今後の展開を考える上で、海外の動きなども注視しながら一度整理することが必要な段階にあるのだろう。海外渡航が全面的に再開する前にオンラインによる国際教育の可能性を熟慮しておくことにより、現在の状況が収束した後でも長期留学へのステップアップの手段として展開したり、さまざまな事情で海外渡航が困難な学生に対し教育機会を拡げるために活用できる可能性がある。〈広報・情報委員会 大学時報分科会委員・上智大学総務局SGU事業推進室長 中山映〉

◆状況が刻一刻と変化する中で、戸惑いながらもオンラインという手法を導入しブラッシュアップしてきた1年間—大学現場では、その可能性を見出す一方で、リアルな場の必要性を同時に実感する時間でもあったことを、編集作業を通じて感じている。

ゴリラ研究の世界的権威である山極寿一氏は、「人間はこれまで、同じ時間を共有し、『同調する』ことによつて信頼関係をつくり、それをもとに社会を機能させてきた」^{※1}と語る。オンラインでは、同時に行い、感じる時間の共有ができないとも指摘している。^{※2}

奇しくも、本号の座談会とクローズアップ・インタビューに共通するのは、場とつながりというキーワードであった。キャンパスという場が何気なく提供してきたものに気づく日々の中、改めて同じ場に集い、人と出会うことの意義を考える号となった。(※1山極寿一「スマホを捨てたい子どもたち」ポプラ社、2020年、p.28 ※2参考：同書)〈日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美〉

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (125大学 令和3年7月20日現在)

愛知大学	金沢星稜大学	南山大学	大正大学
亜細亜大学	関西大学	日本大学	拓殖大学
青山学院大学	関西学院大学	日本女子大学	天理大学
跡見学園女子大学	関東学園大学	ノートルダム清心女子大学	東邦大学
梅花女子大学	関東学院大学	大阪学院大学	東北学院大学
文教大学	慶應義塾大学	大阪医科薬科大学	東北公益文科大学
筑紫女学園大学	恵泉女学園大学	大阪女学院大学	東海大学
中央大学	敬和学園大学	大谷大学	常磐大学
中央大学	神戸女学院大学	追手門学院大学	東京医療保健大学
大東文化大学	神戸海星女子学院大学	立教大学	東京女子大学
獨協大学	皇學館大学	立正大学	東京女子医科大学
獨協医科大学	國學院大学	立命館大学	東京経済大学
姫路獨協大学	国際武道大学	立命館アジア太平洋大学	東京国際大学
同志社大学	国際基督教大学	龍谷大学	東京農業大学
同志社女子大学	駒澤大学	流通科学大学	東京情報大学
フェリス学院大学	甲南大学	流通経済大学	東京歯科大学
福岡大学	久留米大学	西武文理大学	東洋大学
福岡女学院大学	共立女子大学	聖学院大学	東洋英和女学院大学
福岡女学院看護大学	京都産業大学	成城大学	東洋学園大学
学習院大学	京都精華大学	聖カタリナ大学	豊田工業大学
学習院女子大学	京都橘大学	成蹊大学	津田塾大学
白鷺大学	九州産業大学	西南学院大学	和光大学
阪南大学	松山大学	聖路加国際大学	早稲田大学
広島女学院大学	松山東雲女子大学	清泉女子大学	山梨英和大学
広島修道大学	明治大学	聖心女子大学	四日市大学
法政大学	明治学院大学	専修大学	四日市看護医療大学
兵庫医科大学	宮城学院女子大学	石巻専修大学	
兵庫医療大学	桃山学院大学	芝浦工業大学	
実践女子大学	桃山学院教育大学	白百合女子大学	
上智大学	武蔵大学	仙台白百合女子大学	
城西大学	武蔵野大学	昭和女子大学	
城西国際大学	武蔵野美術大学	創価大学	
順天堂大学	名古屋学院大学	園田学園女子大学	

大学時報

University Current Review

2021/7月号

第69巻399号(通巻412号)

令和3年7月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館
電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363
<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階
〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)
小島隆久(同志社女子大学広報部広報室長)
須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)
中山映(上智大学総務局SGU事業推進室長)
依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)
横川修(関西学院大学広報室課長)
田上雅徳(慶應義塾大学法学部教授)
江津英昭(明治大学経営企画部広報課長)
兼高聖雄(日本大学芸術学部教授)
長野香(立教学院広報室長)
立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)
山田健太(専修大学文学部教授)
高橋慈海(大正大学魅力化推進部長)
大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)
鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)
齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)
加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)
水田悠平(日本私立大学連盟事務局)
太田祐輔(日本私立大学連盟事務局)

